

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

日 時	令和6年11月22日（金） 9時30分～11時15分
場 所	南国市役所 5階 第2～第5委員会室
出席者	南国市長 平山 耕三 南国市教育委員会 教育長 竹内 信人 職務代理 上岡 哲朗 教育委員 細川 善久 教育委員 楠瀬 公美 教育委員 浅野 聡子

1 開会

開会の挨拶（平山市長）

2 議事

〔議事1〕南国市教育委員会の取組について①～⑦

【教育委員会事務局】

（資料説明）

【竹内教育長】

事務局の説明について、私の方から補足させていただく。

- 特別支援教育については、特別に支援が必要な子供たちが増えている状況が資料からも読み取れると思うが、その中でも市内の大規模校である大篠小学校・香長中学校が特にその傾向が顕著である。現在、大篠小学校には情緒障害学級が10クラス、54名の児童が在籍しており、その他の障害を有する児童が8名在籍しているため、合わせると特別支援学級が14クラスある。香長中学校には情緒障害学級が2クラス、14名の生徒が在籍しており、その他の障害を有する生徒を含めると4クラス、19名の生徒が在籍している。このように大篠小学校は爆発的に増えており、全ての生徒がそのまま香長中学校に進学するとは限らないが、仮に全ての児童が香長中学校に進学した場合、令和12年度には特別支援学級が10クラスとなり、当該状態が数年続くことが予測される。香長中学校では現状でも教室が不足しており、特別支援学級が10クラスになると全く足りないで、事務局において敷地内で増築するなどの方法を現在検討している最中である。
- 不登校対応については、各学校においてあらゆる対応を進めており、今年度は報告数が若干減少しているものの、担当者も説明したように事務局としては減少しているとの認識ではない。ただし、全国的に報告数が増大している中で、報告数を抑えることができていない状況が珍しいからなのか、長岡小学校や鷹ヶ池中学校の方に県内・外からの視察等が増えている。先程も申したとおり、全国の状況を考えると決して楽観できるような状況ではないので、今後も手を緩めずに対応していかなければならないと考えている。
- 特別支援教育支援員の役割については、市長の英断もあり今年度は支援員を増員したことで様々なところにその効果が出ている。特に今年度は、教員の配置数が非常に少なかったこともあり、支援員が教員数減をカバーするという大きな役割を担っている。今年度の増員が無ければ、学校は非常に大変な状況に陥っていたのではないかとと思われる。来年度は今年度以上の教員不足が予想されているので、支援員の役割は今後益々大きくなっていくのではないかと考えている。ただし、現状の中で香長中学校が1名増員して2名となっているが、大篠小学校は各学年に1名いる状況を見ると、香長中学校もあと2名は増員する必要があるのではないかとと思われる。

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

- 部活動の地域移行については、説明するほど分からなくなるような複雑な状況ではあるが、まほろばクラブ、地域クラブ、合同チーム、拠点校方式の4つの方法で取り組んでいる。部活動の地域移行は非常に複雑で問題点が多く、現在は専属のコーディネーターを2名配置して準備を進めており、この2名の力が無ければ地域移行は難しいと思われるほど、大きな役割を担ってくれている。
- 社会科副読本については非常に切羽詰まった状況であり、南国市に限らず他の市でもこの教材を作るための労力・準備に頭を抱えている。ただし、時間が経つほど編集作業が大変になるので、『南国市のくらし』及び『南国市の歴史』について、それぞれの編集委員会・作業部会を早急に組織し、編集作業を進めていかなければならない。
- 水泳授業にかかる対策については、高知市で第三者委員会が組織されており、当該第三者委員会の報告書及び高知市・県の今後の対応を待って、南国市ではどのような対策を行うか決めたい。また、南国市では現状でどのような対策ができるかの検討を事務局で進めており、資料には物品購入に関する内容を載せているが、その他にも指導者の研修、人員配置又は民間の力の活用なども検討している。
- ゆるやかな学期スタート事業については、令和8年度の開始に向けて6・7年度において試験的な取組を行っている状況である。この取組については、県内の他市町村からの反響が大きく、来年度に向けての問い合わせが現在増えている。6・7年度の2年間について検証を十分に行い、令和8年度から正規に取り組んでいこうと考えている。
- 社会教育主事については以前より議会でも要望されており、来年度は高知大学で講義が実施されることもあり、費用面も含めて一番負担が少なく受講できる。しかし、現状でも学校教育課及び生涯学習課は多忙な状況にあり、講習期間である1ヶ月の間、各課において職員が1名抜けた状態で業務を維持することが課題となっている。

【楠瀬委員】

- 水泳授業の対策についてだが、水泳の授業に民間の施設を利用できたら良いと思っている。水泳の授業をしても将来何に役立つのだろうと考えると、それほど必要性はないのではないかなと思われる。南国市だけではなく高知県内でも同様の話を聞くが、老朽化したプールの改修には何億円もかかるという話を聞いたことがある。もちろん命を守るための水泳教室は必要だが、そのために何億円もかけてプールを改修する必要があるのだろうか。例えば、南国市であればスイミングスクールやながおか温泉などの民間施設もあるので、当該民間施設と連携して水泳の授業ができれば良いと思われる。
- 支援員についての話だが、知人の支援員は片道30分懸けて学校に通っており、授業の2時間に対して30分前に到着する必要がある、且つ授業後に30分の打ち合わせがあるので実質4時間拘束されます。当該支援業務に対して時給ではなく日当で報酬をいただいているとのことだが、ここで市長にお伺いするが日当はいくらだと思われるか。

⇒【平山市長】

4千円程でしょうか。

⇒【楠瀬委員】

実際の日当は2千円とのことである。4時間拘束されるので時給に換算すると500円であり、前任者の勤務時間を確認すると3時間であった。前任者と比較しても同じ日当で1時間長く働いており、その話を事務の方が校長先生に伝えたところ、時給換算で500円は申し訳ないので授業支援に2時間入るところを1時間に変更していただいた。しかし、実際は2時間続けて行う授業もあるので、その場合は途中で抜けるのも子供たちが可哀想なので、結局ボランティアで2時間勤務することもあるとのこと。その話を校長先生に伝えても、予算がないから日当の増額はできないと断られており、支援員として尽力していただいている方々のためにも、待遇改善していただきたいと思いこの話をさせていただいた。

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【平山市長】

報酬の基準を私の方では把握していないが、日当については明確に金額が定められているのか。

⇒【楠瀬委員】

報酬の費用は一応市から出ているとのことだったが、その方は放課後も勤務しており、そちらは時給で2千円頂いているとのこと。

⇒【平山市長】

支援員の報酬を決定する仕組みについてはどうなっているのか。

⇒【楠瀬委員】

校長先生からは予算がないから増額できないと伺ったので、おそらく予算が不足しているのではないかと。

⇒【竹内教育長】

支援員の報酬については個別に要綱で定められており、職務毎に違いは出てくると思われる。

⇒【教育委員会事務局】

今回の話で出てきた支援員については、生涯学習課の予算で学校の共同本部に、言い方は悪いかもしれないが有料ボランティアとしてお手伝いに来ていただいているもので、放課後の勤務については学校教育課の予算で時給を定めて依頼しているものである。そのため、ご本人からすると業務はどちらも同じかもしれないが、学校としては財源及び報酬の基準が異なるものである。また、当該支援員は今回議題に出ている支援員とは異なるものである。

⇒【平山市長】

整理として、同じ支援員という呼び方をされているが、その中でも職務がそれぞれ異なっており、職務毎に要綱で報酬の基準が定められているため、要綱自体を変更しない限り報酬額を変更することはできないという認識で良いか。

⇒【竹内教育長】

その認識で相違ない。

⇒【平山市長】

人によって報酬が異なるわけではなく、どこの学校でも同じ基準で報酬を支払っており、予算の有無等で報酬額が変動するわけではないので、その点をご理解いただきたい。

⇒【楠瀬委員】

報酬の支払基準については理解したが、現実問題として支援員が不足しており、学校も人員確保に苦労しているとのことであった。

⇒【平山市長】

市としても上限なしに予算を計上することはできず、予算を計上する以上は歳入を確保する必要がある。しかし、自主財源である税收等は増やそうと思って増やせるわけではなく、南国市に限らず多くの自治体で財源の大部分は地方交付税や補助金を頼っている状況である。昨今の物価高騰などもあり人件費が増大している中で、市の財政状況も非常に厳しい状況にあることをお知りおき頂きたいのと、報酬を増額するために要綱を改訂するのであれば、当然その為の予算を確保する必要がある。しかし、自主財源で当該予算を確保するのは困難であり、また南国市だけの問題でもないの、国の方で財政措置をしていただき、予算を確保できるように働きかけを行っていく必要がある。

⇒【楠瀬委員】

それではそのための働きかけをお願いしたい。

【浅野委員】

私の方からは2点と最後感想を述べさせていただきたい。

- 1点目はチーム学校の推進・強化についてだが、この『チーム学校』についての認識を統一し、変えていかなければならないと考えている。学校と付くとどうしても学校の中、そして先生方と

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

いうイメージになってしまうが、学校の先生方だけではなく、保護者や家庭、地域及び民間の企業・人なども含めてのチーム学校であるという意識を持たせるために、どのように働きかけていくかが非常に大事な点ではないかと考えている。部活動の地域移行についても、非常に複雑で難しいプロセスを踏まれている途中だとは思いますが、この取り組みは良い影響も非常に多いと思っており、その一つとしていじめの回避に繋がるのではないかと考えている。以前、有名人の体験談で、学校外で空手をしていたがいじめに遭った際に、学校外に空手の友だちがいたので挫けず、めげずに強い大人になれたという話を目にしたことがある。やはり、学校以外のコミュニティを持つというのは、子供たちにとって今重要なのではないかと。私が伝えたいのは、部活動の地域移行はあくまで学校の負担軽減というのが始まりだとは思いますが、先ほどの体験談のように他の課題を解決する手段にもなり得るのではないかとということで、その可能性を今一度洗い出してみる必要がある。その結果、様々な取組の効果が倍増する可能性が高いと考えており、コストの抑制や人員削減にもつながると思われるので、一つの問題に囚われるのではなく様々な視点から検討する必要があるのではないかと考えている。

- 2点目は社会科副読本の件だが、小・中学校合わせて3,000人程しかいない南国市の子供たちに、南国市の未来をどのように託していくのかという話にもなると思われる。地域の事、自分達の地元の事に愛着を持つというのは非常に大事なことだと思うので、短期的にはやはり猪原所長や竹内教育長の話にも出た組織化及び一刻も早い改訂作業を行い、貴重な子供たちに南国市のすばらしさ、高知県のすばらしさを伝えていく事が必要だと思われる。ただし、長期的には教育方法の見直しも必要であると考えており、200ページの教科書で知識として学習するのが、愛情を持って未来の南国市を育ててくれる人材の育成に必要なかどうか、並行して検討していく必要があると考えている。例えば体験的な学びを増やして知識的に必要な資源を削減することで、子供たちの心や頭の記憶に残る教育に繋がるのではないかと。また、南国市に最終的に帰ってきてくれる子供を育成できるのではないかと。そのためにも、短期的には議題のとおり副読本の改定を進めていただき、長期的には教育方法の見直しについて私達が検討を進める必要があると考えている。
- 私が教育委員をさせていただいて間もなく2年になるが、部活動の地域連携や緩やかな学期スタートなど、意図したものではないと思われるが非常に南国市は先進的だと感じている。変えることが難しい問題が多いと思われるが、時代や環境の変化を敏感に感じて柔軟に変化・進化することで対応できている。そのうえでプロセスがとても丁寧であり、ただ単に変えるのではなく人の心に寄り添えていることを、一市民としてとても誇りに感じるが多くある。今後も変わる必要があることを逆に私達の強みに変えて、他の市区町村の手本となれるような改革・推進ができれば良いと考えている。

⇒【平山市長】

- 浅野委員の発言にもあったようにチーム学校の取組というのは、学校内だけに留まるものではなく外部との連携を想定したものであり、その取組も各地域に広げているとの認識だが相違ないか。

⇒【竹内教育長】

相違ない。学校内だけではなく外部も含めた活動を行っており、各地域に広げるようにしている。

⇒【平山市長】

- 今後も地域で連携して地域づくりを進めていく必要があると考えている。部活動の地域連携も結果としてハイブリッドな取組となっており、先進的と言うよりも実現可能な形を模索する中で現在の取組に繋がっている。今後も様々なやり方を検討しながら進めていきたい。
- 先程、楠瀬委員から水泳授業における民間施設活用の話があったが、回答するのを抜かっておりました。現在、ながおか温泉についてはすでに活用しており、スイミングスクールについては施設の不具合により見送りとなっているが、今後については活用する計画があると聞いている。

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

⇒【教育委員会事務局】

民間プールの活用については、令和5年度に長岡小学校で初めて隣接するながおか温泉を使って水泳授業を実施した。令和6年度については市長からも説明があったが、長岡小学校については引き続きながおか温泉で水泳授業を実施した。その他の学校については、民間のプールを使用する場合はバス移動が必要なので、バスを所有している南国スイミングスクールで実施予定であったが、施設の不具合で実施できていない。来年度については今年度の予定と同様に実施予定だが、今回のように民間の施設でも施設等の不具合が生じる可能性はあるので、そのあたりを考慮して実施するようにしたい。

⇒【平山市長】

民間プールの活用状況については事務局から説明したとおりであり、ながおか温泉では小学生向けのスクールを実施しており、指導者の方も在籍しているので環境は良いと聞き及んでいる。

【細川委員】

- 浅野委員と意見が重複する部分もあるが、いじめや不登校に関する問題の中で全国的には非常に大きい数字となっており、例えば令和4年度から5年度にかけて不登校の児童・生徒が4万人増えている。おおよそ南国市の人口に匹敵する児童・生徒が不登校となっており、非常に大きな問題だと感じている。南国市のいじめ・不登校の現状が良い状況というわけではないが、全国と比較すると報告数は抑えることができている、取組の成果がデータに反映されているように感じる。私が学校を訪問した際に、授業の様子を見ると教員の方が一人のところもあるが、他の教員の方が補助に入り見守る姿も見受けられた。そして、今年度から支援員を増員していただいたことで、手厚い支援ができるようになったのは大きな効果をもたらしており、費用に見合った効果があったと自分は考えている。先程申したように不登校の児童・生徒が増えているが、理由の一つとして学校のシステムが今の子供たちに合わなくなっていることがあるのではないかと考えている。自分が小学生であったときの学校と今の学校はそれほど変わっていないように感じるが、社会はこんなにも変わってきている。その歪みが不登校の児童・生徒の増加につながっているのではないかという考え方もあり、それに対して一人一人に寄り添ってあげるのが大事であり基礎でもあると思われる。しかし、そのためには学校が今多忙すぎる。そして、寄り添うにしても担任の先生ではなく保健の先生なら相談し易い、保健の先生より他の人の方が相談し易いというように様々なタイプの児童・生徒がいるので、それぞれに相談し易い人に相談できる環境の方が良い。だからこそ、支援員が増えたことでこれまで以上に寄り添いができるようになったのは、非常に良かったのではないかと思います。予算は厳しいとは思いますが、できれば来年度に向けて支援員を更に増員していただきたいので、ぜひ検討の程宜しくをお願いします。

⇒【平山市長】

- 検討の結果について約束はできないが、支援員の増員に対する思いは承った。

【上岡職務代理】

- 報道や濱田知事からも話が合ったが、来年度から国からの財政支援が7兆円と全国規模で大幅に減るとのことで、各市町村の財政状況が非常に厳しくなっていると思っている。支援員を増員した状況しか見ていないので、今年度の増員がなければと想像することしかできないが、おそらくここ数年間の増加に従って今年度も増えていたのではないだろうか。支援員の増員だけでなくゆるやかな学期スタートなど、様々な取り組みがあったので現在の状況に落ち着いていると考えている。確かに教員の方々は多忙だと思われるが、自分達の取り組みの効果が見えるなど、何らかの成果を感じることができれば、多忙感というのはかなり軽減されるのであらうと思っている。教員の負担は少ない方がいいとは思いますが、多忙なうえに多忙感もあることが心労者を増やす原因であると推測している。やはり、今後も教育に関する様々な取組についてスクラップアンドビルドが必要だが、スクラップする取組とビルドする取組のバランスが非常に大事であると思っており、社

令和6年度第2回 南国市総合教育会議 議事録（概要版）

会科副読本など各市町村で必ず作らなければいけないものもあるが、上手くスクラップして上手くビルドすることが必要だと思われる。

⇒【平山市長】

- 自分が忙しい状況で、成果が見えれば多忙感も軽減されるかもしれないと思う。成果が見えないとただやみくもに走っている様に感じ、心が折れてしまうかもしれないので、教員の方々の負担を軽減することができれば最善だが、取り敢えずは学校が上手く回るようにできれば良いと思う。

〔議事1〕南国市教育委員会の取組について⑧ ※非公開

3 閉会

以上